

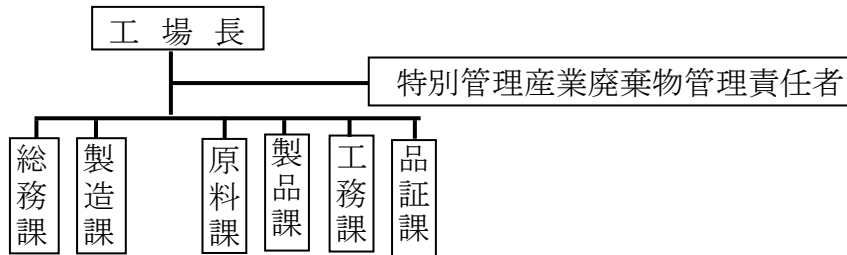
様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書		2024年5月13日
滋賀県知事 殿		
提出者 住 所： 滋賀県東近江市平柳町 5 1 4 氏 名： エス・エス・アルミ株式会社 滋賀工場 工場長： 吉原 学 電話番号： 0749-45-2511		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。		
事業場の名称	エス・エス・アルミ株式会社 滋賀工場	
事業場の所在地	滋賀県東近江市平柳町 5 1 4	
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
①事業の種類	アルミニウム合金製造（日本産業標準分類：2 4 2 3）	
②事業の規模	製造品出荷額： 約130億円	
③従業員数	100名	
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	①廃アルカリ：■は処理委託（以下共通） ・発生工程（社内：塩素処理、電気集塵機処理） ・精製工程（使用済塩素含有排ガス） ・廃ガス中和洗浄工程（廃アルカリ液） ・処理工程 ■中間処理（コンクリート固型化）->埋立 ②汚泥 ・発生工程（社内：塩素処理、電気集塵機処理） ・精製工程（使用済塩素含有排ガス） ・廃ガス中和洗浄工程（廃アルカリ液） ・固形化（フィルタープレスによる脱搾－汚泥化） ・処理工程 ■中間処理（コンクリート固型化）->埋立 ③ばいじん ・発生工程（原料溶解、燃料の燃焼） ・集塵工程（集塵機（サイクロン、バグフィルター）） ・排出工程（フレコンバッグ受け、フレコンバッグで保管） ■中間処理（コンクリート固型化）->埋立	

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	有害廃アルカリ	有害汚泥	有害ばいじん		
	排出量	0t	20t	184t		
	（これまでに実施した取組） ・有害廃アルカリの引取り量および回数を増やしたことで、濃度が薄くなり排出量が0になりました。 ・計画よりも生産量が少なかったことで、有害ばいじん排出量が減りました。					
②計画	【目標】（令和6年度）					
	特別管理産業廃棄物の種類	有害廃アルカリ	有害汚泥	有害ばいじん		
	排出量	0t	25t	280t		
	（今後実施する予定の取組） ・煤塵は生産量が回復する見込みのため、計画量を維持します。 ・引き続き廃アルカリの引取り量を増やし、濃度上昇を抑え排出量0を維持します。					

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・年1回の成分分析を継続して行っています。 ・滞留産業廃棄物は発生していません。
②計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・一時保管の分別をすすめ整理整頓に努めます。

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	（これまでに実施した取組） —					
②計画	【目標】（令和6年度）					
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	（今後実施する予定の取組） —					

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	（これまでに実施した取組） —					
②計画	【目標】（令和6年度）					
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	（今後実施する予定の取組） —					

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組) —					
②計画	【目標】（令和6年度）					
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) —					

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】					
	特別管理産業廃棄物の種類	有害廃アルカリ	有害汚泥	有害ばいじん	—	—
	全処理委託量	0t	20t	184t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0t	20t	184t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・委託契約と許可証の有効期限等の確認を行いました。 ・優良認定業者の情報収集を行い、新たな業者の評価を進め契約を交わしました。					

(第5面)

②計画	【目標】（令和6年度）			
	特別管理産業廃棄物の種類	有害廃アルカリ	有害汚泥	有害ばいじん
	全処理委託量	0t	25t	280t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0t	25t	280t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)			
	・廃アルカリの引き取り量を増量し、特別産業廃棄物として排出しない取組みを継続 します。			
	電子情報処理組織の使用に関 する事項	【前年度】（令和 5年度）実績		
特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		204 t		
(今後実施する予定の取組等)				
既に電子マニフェストでの運用を実施しています。				
※事務処理欄				

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。